

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第7週 (2/15-2/21) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		7週	6週	5週	4週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千		葉			市		千葉県
		注意報	2/15-2/21	2/8-2/14	2/1-2/7	1/25-1/31	2/8-2/14		
			7週	6週	5週	4週	6週		
小 児 科	RSウイルス感染症		1 0.06	2 0.11	6 0.33	6 0.33	17 0.13		
	咽頭結膜熱	○	9 0.50	1 0.06	1 0.06	3 0.17	34 0.25		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		54 3.00	38 2.11	68 3.78	51 2.83	522 3.87		
	感染性胃腸炎		110 6.11	101 5.61	126 7.00	149 8.28	837 6.20		
	水痘		7 0.39	5 0.28	7 0.39	11 0.61	53 0.39		
	手足口病		1 0.06	2 0.11	0 0.00	0 0.00	3 0.02		
	伝染性紅斑		3 0.17	6 0.33	7 0.39	15 0.83	64 0.47		
	突発性発しん		15 0.83	8 0.44	7 0.39	6 0.33	41 0.30		
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01		
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01		
	流行性耳下腺炎	○	12 0.67	4 0.22	8 0.44	11 0.61	137 1.01		
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフル エンザを除く)	↓↓★★	1,100 39.29	1,224 43.71	1,294 46.21	845 30.18	9,927 46.39		
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00		
	流行性角結膜炎	○	4 0.80	3 0.60	6 1.20	5 1.00	16 0.48		
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00		
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00		
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	3 3.00	0 0.00	6 0.67		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00		

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	女性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	70歳代	病原体の検出	結核	女性	80歳代	画像診断
結核	女性	40歳代	IGRA検査	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱、中枢神経症状等

・第6週は、結核5件(28)、急性脳炎1件(6)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第7週のコメント

＜インフルエンザ＞前週より減少し39.29となった。流行発生警報開始基準値を上回ったまま。過去10年の同時期と比べると多い。

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.50となった。過去10年の同時期と比べると最多。

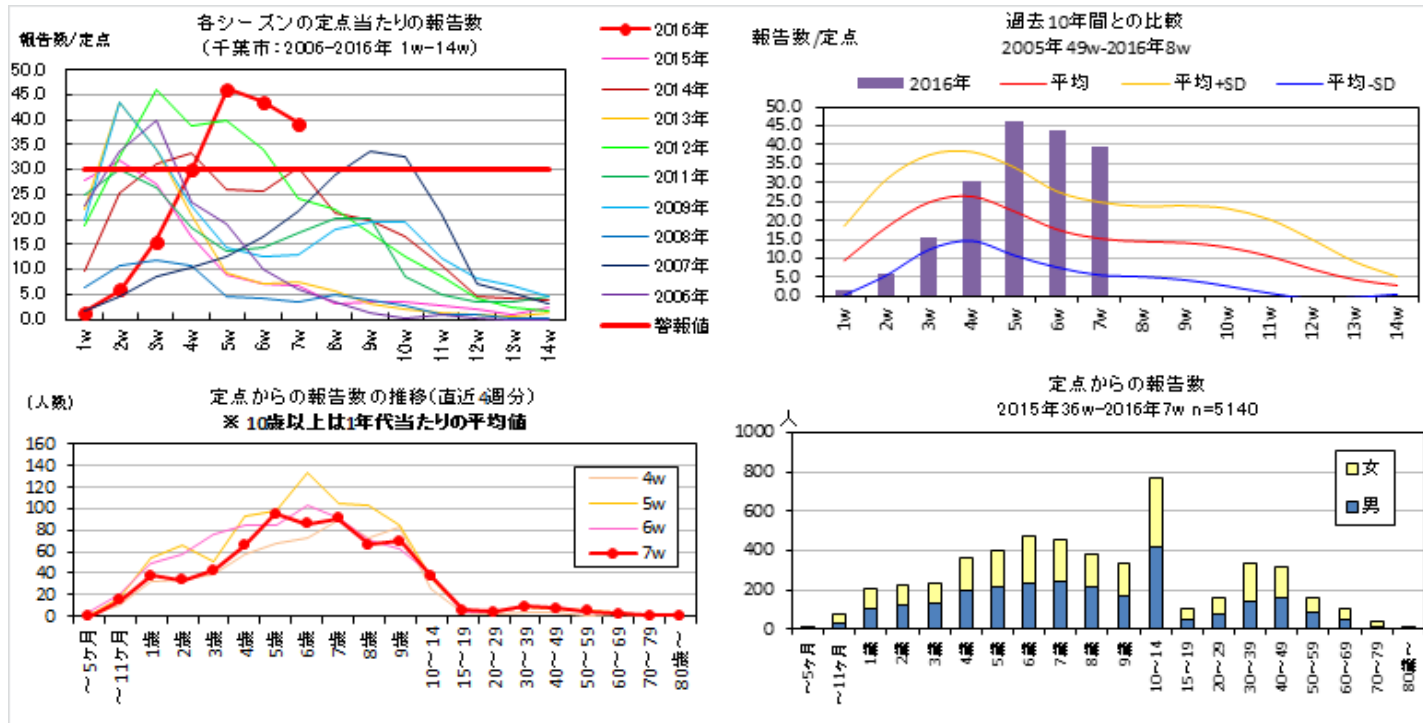
＜流行性耳下腺炎＞前週より増加し0.67となった。過去10年の同時期と比べると多い。

＜流行性角結膜炎＞前週より増加し0.80となった。過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

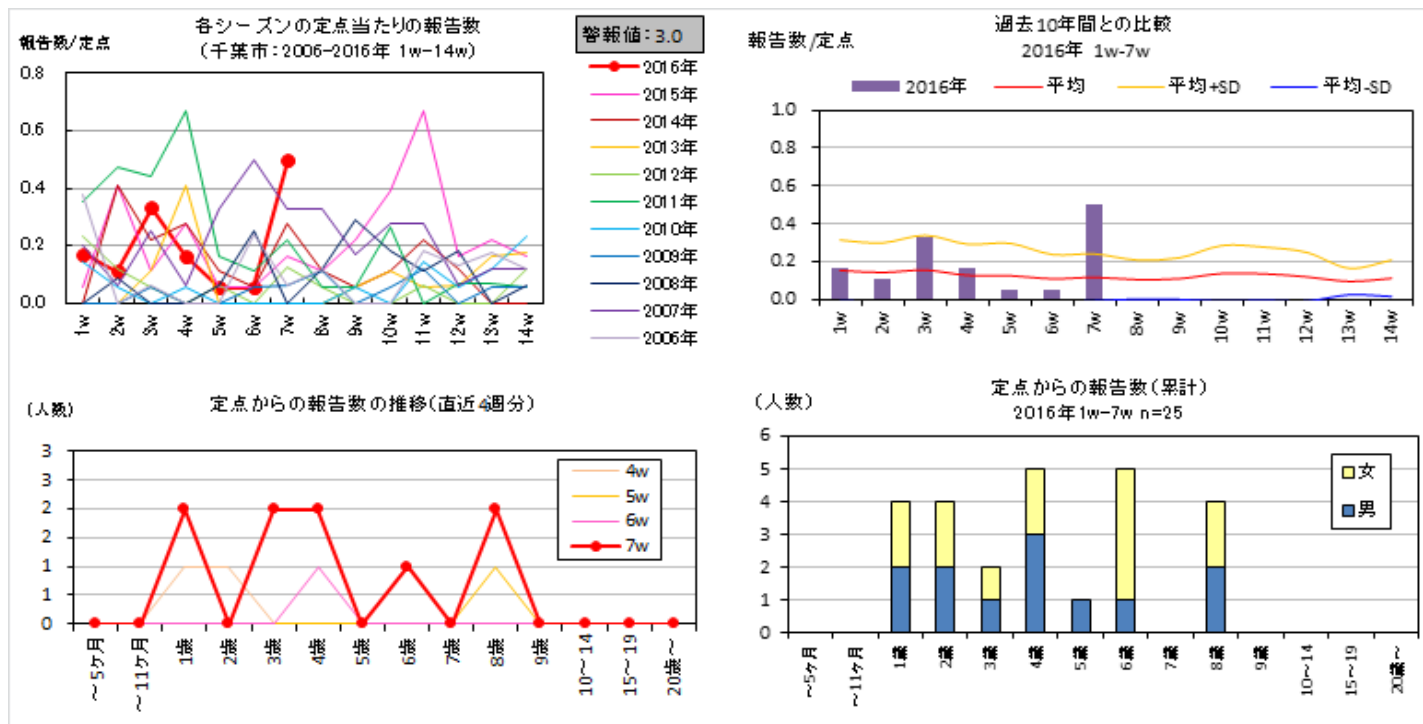
＜インフルエンザ＞

全国レベルの第6週は、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回ったままで、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、愛知県、沖縄県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2016年第7週は前週より更に減少し39.29となりましたが、流行発生警報開始基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、中央区(52.7/定点)で最多で同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは7歳及び9歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第7週までの累積報告数(n=5140)によると、性別では男性が51.8%(2660名)、女性が48.2%(2480名)で、年齢階級別では6歳(9.16%:471名)、7歳(8.83%:454名)、5歳(7.70%:396名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の78.1%、10歳未満は全体の61.2%となっています。



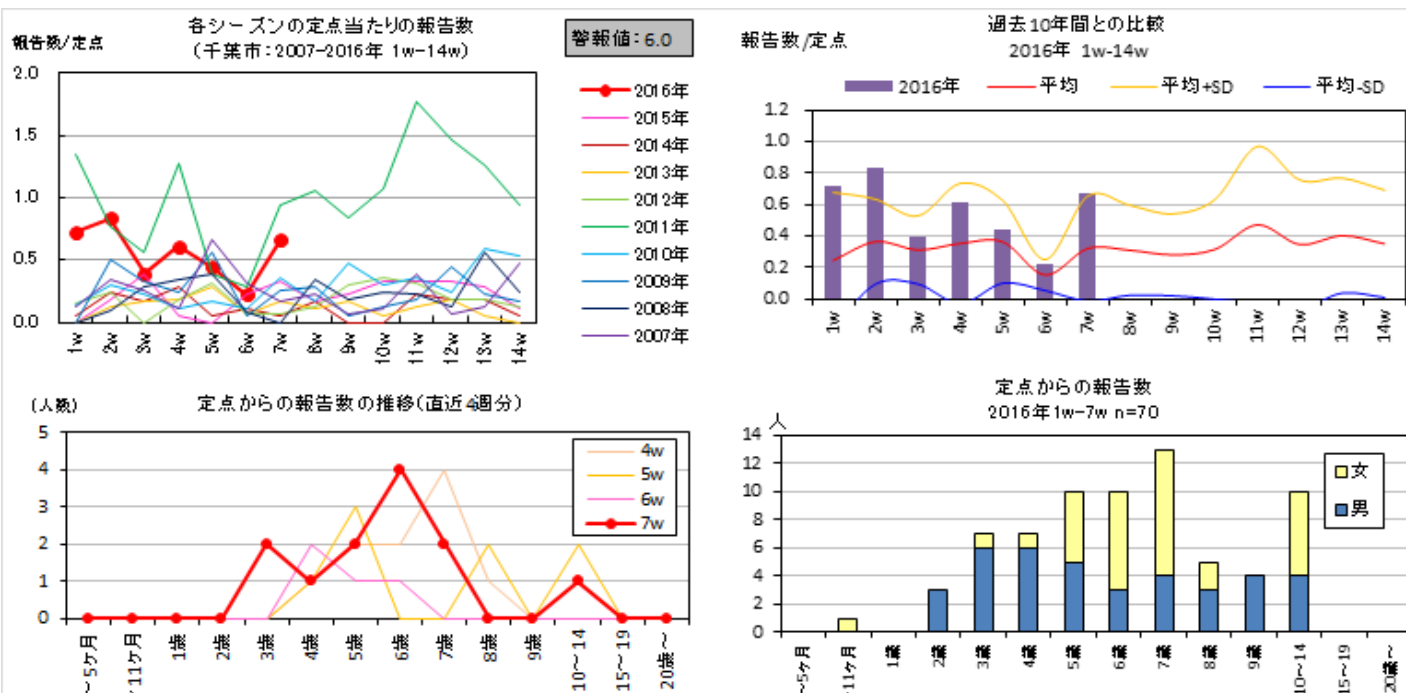
＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第6週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、石川県、鹿児島県、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2016年第7週は前週より増加し0.50となり、過去10年の同時期と比べて最多となりました。区別の発生状況は、若葉区(2.0/定点)で最多で同区の1歳、3歳、4歳及び7歳で発生報告がありました。2016年第1週から第7週までの累積報告数(n=25)によると、性別では男性が48.0%(12名)、女性が52.0%(13名)で、年齢階級別では4歳及び6歳(20.0%:5名)、1歳、2歳及び8歳(共に16.0%:4名)の順に多くなっています。



＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの第6週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮崎県、佐賀県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第7週は前週より増加し0.67となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(2.0/定点)で最多で同区の3歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第7週までの累積報告数(n=70)によると、性別では男性が54.3%(38名)、女性が45.7%(32名)で、年齢階級別では7歳(18.6%:13名)、5歳、6歳及び10歳代前半(共に14.3%:10名)の順に多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの第6週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、佐賀県、熊本県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なくなっています。千葉市の2016年第7週は前週より増加し0.8となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(2.0/定点)で最多で同区の7歳及び50歳代で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第7週までの累積報告数(n=25)によると、性別では男性が44.0%(11名)、女性が56.0%(14名)で、年齢階級別では30歳代及び60歳代(共に20.0%:5名)、50歳代(16.0%:4名)の順に多くなっています。

